

平成 27 年度 滋賀県がん診療連携協議会・第 1 回診療支援部会 議事概要

- 日 時** 平成 27 年 6 月 29 日 (月) 18 時 00 分～19 時 20 分
- 場 所** 滋賀医科大学医学部附属病院 D 病棟 1 階 多目的室
- 出席者** 滋賀医科大学医学部附属病院 (部会長: 安藤消化器内科診療科長)、大津赤十字病院 (副部会長: 土井副院長)、滋賀県立成人病センター (打田主査)、公立甲賀病院 (沖野院長代行)、彦根市立病院 (來住診療局主任部長)、市立長浜病院 (伏木放射線科責任部長)、高島市民病院 (小泉副院長)、大津市民病院 (青木副院長)、済生会滋賀県病院 (重松消化器内科 副院長 (代理: 石井))、近江八幡市立総合医療センター (石川消化器内科部長)、長浜赤十字病院 (駒井消化器内科部長)、東近江総合医療センター (辻川副院長)、滋賀県歯科医師会 (松井公衆衛生部会副部長)、滋賀県薬剤師会 (中嶋介護福祉委員会委員)、滋賀県看護協会 (三上専務理事)、滋賀県放射線技師会 (山田理事)、滋賀県病院薬剤師会 (寺田会長)、滋賀県歯科衛生士会 (山本監事)、滋賀県放射線治療連絡協議会 (芥田会長)、滋賀県健康医療福祉部 (鈴木健康医療課がん・疾病対策室主席参事)
- 【オブザーバー】 滋賀県がん患者団体連絡協議会 (菊井会長、多田さん、奥井さん)
- 【部会事務局】 滋賀医科大学医療サービス課 (浅井課長、黒瀬課長補佐)
- 欠席者** 滋賀県立成人病センター (副部会長: 川上副院長)、草津総合病院 (卜部副院長)、滋賀県医師会 (重永理事)
- 【準部会員】 滋賀医科大学医学部附属病院 (醍醐腫瘍センター長)

1. 報告

次の新規部会員の紹介があった。

公立甲賀病院 沖野 孝 院長代行

高島市民病院 小泉 聡 副院長

東近江総合医療センター 辻川 知之 副院長

滋賀県医師会 重永 博 理事 (本日は欠席)

滋賀県立成人病センター 打田 拓也 経営企画室主査

また、昨年度、がん拠点病院の現況報告の項目の選択に御協力をお願いし、前年度第 3 回の部会にも参加していただきご意見をお伺いした、がん患者団体連絡協議会の皆様に、今年度からはオブザーバーとして毎回ご参加いただくことになったこと、本日は、菊井会長、多田さん、奥井さんの 3 名が参加していただいていることの紹介があった。

新年度の第 1 回目の部会であり、部会員の異動もあったので、改めて診療支援部会の役割について次の説明があった。

滋賀県におけるがん医療の向上と均てん化を図るとともに、がん診療の連携協力

体制を構築するため、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」（厚生労働省指針）および「滋賀県がん対策推進計画」に基づき滋賀県がん診療連携協議会が設置されており、協議会のもとに企画運営委員会と6つの部会（相談支援部会、地域連携部会、がん登録推進部会、診療支援部会、研修調整部会、緩和ケア推進部会）がそれぞれ役割を持ち活動している。

診療支援部会の役割としては、次の2項目が所掌事項に定められている。

- ・がん診療連携拠点病院への診療支援を行う医師の派遣調整に関すること
- ・高度医療の推進に関すること（がん治療薬剤臨床試験を含む）

部会長病院は滋賀医科大学、副部会長病院は滋賀県立成人病センターと大津赤十字病院に担当していただいている。

2. 議題

(1) 平成27年度の取組について

1) アクションプランの確認について (資料1)

部会事務局から次の説明をした。

平成25年3月に、第2次滋賀県がん対策推進計画が策定され、これに基づいて5カ年計画を立てて進めていくことになっており、診療支援部会においては、診療支援の推進と高度医療の推進を目標に掲げて推進していくこととしている。

施策内容については、毎年見直して目標達成に向けて取り組んでいるところである。

今年度の取組については、昨年度の最終の部会で承認していただいております。滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシートに記載した承認済み5項目の具体内容は次のとおりである。

○各病院の機能分担を目指した機能調査（項目の選択）

滋賀県がん対策推進計画の中で、がん医療機関の整備を行うということで、がん患者さん、がんの状況に応じて適切な医療を受けるためには、県内の医療機関が役割分担をして連携を行うことが重要であるとされている。この5カ年で医療機関の分担と連携体制の整備を行っていくこととして、各病院の専門性を生かした医療機能分担について、どの病院がどういう分野に強みを持っていて、どの病院にかかればよいかということがわかるように、本部会で各病院の医療機能の調査を行うこととなって進めてきたものである。しかしながら、他府県等で行っておられる医療機能調査は少し複雑で困難な部分が多いということで、まず出来ることとして、拠点病院、支援病院が県に提出している現況報告をホームページに掲載して県民の方々に見ていただくことから始めたらどうだということで、現況報告の項目の選択を前年度まで行ってきていただいたところである。

○先進的（高度）ながん医療について

各医療機関のがん治療に関わる先進的な、また高度な医療に関する情報提供を行うということでホームページに掲載して特色ある医療技術を中心としてその内容とがんの対象疾病、対象病名がわかるようにしたもので、医療機関の特徴ある医療を紹介しようとしてきたものである。

また、医師主導の治験であるとか臨床研究で先進医療において、紹介元の医療機関と緊密な診療体制の更なる進行を目指すといったこととか、また、各医療機関で取り組んでいる治験を共有していくとか、さらに踏み込んで、滋賀医大の臨床研究開発センターの活用を図っていくとか等を検討していく取り組みである。

○診療支援推進の仕組みの検討等

診療支援部会の目標は、医師の派遣調整を行うことであったが、これも困難で、滋賀県がん診療人材情報バンクの構築に向けて協議するとしてきたものである。しかし、これも情報を集約することが難しいということもあって、お互いに情報を共有する方向で、診療支援部会でメーリングリストを利用して可能な限りの情報を共有するとして取り組んでいるものである。治験情報であるとか、セカンドオピニオンなどの情報提供、各病院及び各団体からの情報発信を積極的に進めていくとしている。

○各団体の取組みを把握していく

毎回、各団体の皆様から取り組みの情報を報告していただき、専門領域の情報を、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師等で情報を共有していただき、さらにそれぞれの団体でがん医療に関わる活発な取り組みを実施していただくとしているものである。

○HPの拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築

がん情報サイトが今年度からでき、これの充実を図っていくこと、また、先ほどのメーリングリストの活用を図ってがん医療の情報を共有していくことで、ネットワークを構築して行こうという取り組みである。

なお、27年度の年間スケジュールについては、当部会を全3回開催して、上記の取組みを順次進めていくものである

上記の説明内容について、次の議論をした。

(部会長) こちらの希望であるが、アクションプラン各項目を言葉で説明していただいたが、聞いていても何のことかさっぱり分からないので、次回から、読み上げるのではなく活字を見て理解できるように資料として必ず出してほしい。

だいたいは何回か聞いたことはあるので分かったような気はするが、皆さんも聞いていただけでは何のことかさっぱりわからないと思う。

(部会員) 心に残ったのは、どれも難しいということで、各項目とも、初期の目的から方向性が若干ずれて、結局達成ができる目標は、なかなか立っていないのかなと感じた。もちろん難しい分野ですが、なにか有効な取り組みを一步一步進んでいくことが確認していけるアクションプランである方が良いのではないかと感じた。ただ自分が具体的に何かを言えるかと言ったらまだ言える状況にはない。

(部会長) 中に入っていて感じることは、はっきり言って結局毎年書いていることは同じですね。ぜんぜんどう変わったのかもわからないようなアクションプランになってしまっているの、そこはもっとわかるようなアクションプランを資料として出してもらおうか、去年1年間どういったことをしてきたか、どういった

進歩があったかわかるところをぜひ見せてほしい。皆さんもそう感じているであろう。この部会が始まる前に、資料として昨年までの取組みをぜひ提出するよう言ったが、新しい先生も来られているので、昨年1年間のこの部会の取組みを説明願う。

(部会事務局) 医療機能分担のための公表項目ということで、資料2になるが、平成26年度に拠点病院、支援病院が提出している現況報告の調査項目を選択していただいた。これは各病院の専門性を生かした医療機能分担ということで、県民の皆様にとどの項目を発信すべき項目かということで選択していただき協議会のホームページから閲覧できるように進めてきたものである。資料2を見ていただくと、ホームページから検索しやすいように、大分類、小分類、項目名称、内容という構成にして、ホームページの方から検索できる項目を選択したら当該医療機関の内容が出てくるというかたちのものである。提示用案として作成した画面を投影のうえ項目を展開して説明した。展開して表示する画面は、各病院から滋賀県、厚労省に提出している現況報告の該当部分そのものになる。

前回もお示ししたが、他府県がどうかたちで表現しているかということで、患者目線での大阪のがん情報サイトは、がん診療をするときにどの病院にかかれればよいかということを検索していくものであるが、ここでも、診療機能から選択する、相談支援から選択する、緩和ケアから選択するというように、先ほど提示した分類と同じようなかたちで構成されている。例えば、診療機能ならば、がん種から各病院を展開することができ、持っている機能を表示できることになっている。

今回の提示の構成は、病院基本情報として資料Bを一番上にして、指定要件として各病院の診療機能を表す資料Cとさせていただいた。

(部会長) 現況報告をそのまま出しているので分かりづらい面があるが、この部会を通して一步一步わかりやすく変えていく必要があると考える。今回の提示案は、滋賀医科大学分しか提示できないが、次回からは他病院もすべてクリックしたら展開するようにすることと統一された表現が必要である。

(部会員) 病院の資料の集め方のデータとしてはこれでよいが、あくまで病院の評価の表になっている。患者さんから見ることを目的とするならば、がん種をクリックするとどの病院が治療をしていてその特色がわかるという風に患者目線から見ることでできるように組み替えることが必要と考える。

(部会員) 滋賀県の情報サイトを見られるのは、一般県民の方なので、一般の方がみられる内容としては、先ほどからも意見が出ているように、大阪の情報サイトのよう組み替えることがよいのではないかと思う。

現況報告は、医療従事者も見たい情報になるので、より詳しい情報を知りたい方とか医療従事者とかはボタンで誘導して見るができるようにすればよい。載せる項目はかなり時間をかけて選んだものなのでこれはこれでより深い所に置いておけばよいと考える。

(部会長) 次回は、患者目線から見ることでできるようにまとめていただけたらよいと考える。

今回の提示案はわかりにくくなっているので、医療従事者の見たい情報と患者さんが知りたい情報を分ける必要があるということで、入り口を分ける必要があるが、今は一つに合わさってしまっているのがわかりにくいところがあると思う。(患者会) 滋賀県のがん情報サイトが立ち上がっているが、これとの連携は当然サイトのどこかに入ることになると思うが、それならば、部位の検索と問別の検索の二通りの検索になるので、それならばこちらは部位の検索をしっかりとしたいのではないかと。医療情報も含めた患者が求める内容をしっかりとしたものにしなれないと同じものが二通りあって違う情報が流れているとどちらが本当になるのか、検索の連携、情報の連携、収集の連携をしっかりと一本化していただかないと迷うことになる。

(部会員) 患者会長の意見はもっともであるので、滋賀県のがん情報サイトは必ず一本化する。ただよくあるように、何々ガンはどういったものであるかというものに関しては中央のほうに飛ばすということで、滋賀県に特化した情報を手厚くする方針にしている

(部会長) 滋賀県のサイトはまだ皆さんが完全に理解できていない状況なので、内容を見ていただきディスカッションして徐々に充実させていこうと思う。

(部会員) 今、ひな形を見せていただいたが、これは報告書をそのまま加工して貼り付けるといった手法をとっているが、多分作るほうはこれが一番簡単で、内容的にも正確で、各機関が平等で出ると思う。だけど、これをある程度加工して患者目線ということになると、疾患があってそれに各施設がぶら下がることになるので、何らかの加工ということが出てくる、そうすると病院の冊子とかとどこが違うのかということになるので、アンフェアにならないように情報がより正確になるようにリストアップするという結構大変な作業があることになると思うのでぜひ頑張ってくださいなと思う。

(部会員) リストアップすることになるが、今は、拠点病院と支援病院だけになっているが、どこまで入れるのか、線引きをするのかしないのか 掲載されないと不公平感が出る

(部会員) 表の順番にしても、成人病センターがあって、その次に滋賀医大があって、なぜ、滋賀医大が一番左に来ないのかということもある。

(部会員) どこが一番だということはないので、北から順番に並べるとか、

(部会員) 長浜はいつも一番最後なのでなぜかないつも思っている。

(部会員) 大阪も、北摂とか地域が出ていたので、そこから検索する人もおられるかもしれない。

(部会員) 滋賀県全図を作ってそこから検索できるようにするほうがフレンドリーと思う。

それと高島市民病院が一番端にあったが、国指定のがん診療病院になったので、中間の所に入れることになる。

(部会長) 頭に描いていくとこのようになってくる。やると大変だと思うが、必死でやるようお願いしたい。

(部会事務局) この項目を選んでいただいて、こういう形でお見せするという

と、病院の情報についてはこのような細かい数字が並んでくるが、このあたりも進んでいく中で、見せ方とかも含み検討していただけたらと思う。
(部会長) せつかく年に数回集まるので、少しずつ進歩があるように、よろしくお願ひしたい。

(2) 今年度各団体の取組予定について (資料3)

(滋賀県医師会) 欠席

(滋賀県病院薬剤師会)

- ・平成26年度に引き続き、セミナーや講演会を実施し、薬剤師の資質をあげていく。
- ・病院薬剤師を対象にした症例検討会をさらに充実させ、病院間の相互交流とがんに関わる薬剤師の臨床能力の充実をさらに進める。年5-6回を考えている。

(滋賀県薬剤師会)

- ・滋賀県薬剤師会認定在宅ホスピス薬剤師のフォローアップの実施
- ・医療用品共有システムおよび在宅医療推進のための薬局機能情報サイトの継続運用
- ・滋賀医大や成人病センター等で行われるがん関連研修会への参画
- ・抗がん剤および無菌調製研修会の開催

(滋賀県歯科医師会)

- ・日本歯科医師会と厚生労働省国立がん研究センターが実施のがん医科歯科連携事業を推進している。(DVD視聴形式の全国共通がん医科歯科連携講習会で、昨年も3回実施した。今年は第1回を6月25日に実施し、この講習を受講すると、がん医科歯科連携医療機関の登録ができ、県下で56医療機関が登録されている。次回の講習会は11月5日に実施予定になっている。)
- ・口腔がん啓発のための公開講座および歯科相談の実施。
- ・歯科医師及び歯科医療従事者の「口腔がん」に関する研修の実施。

(滋賀県歯科衛生士会)

- ・がんの知識を向上させることを目的で研修会を開催する。今年度は28年3月6日に計画している。
- ・「周術期口腔衛生管理」について、歯科衛生士の立場から人材育成するプログラムを作成して研修等に取り組むことを今年度のテーマにしている。

(滋賀県放射線治療連絡協議会)

- ・本会は他団体と違い、放射線治療に関わる医師、診療放射線技師、随時、認定看護師等が参加していることが特徴になっている。
- ・滋賀県放射線治療連絡協議会のホームページを立ち上げて、滋賀県情報サイトにリンクすることを目標にしている。

(滋賀県看護協会)

- ・本会は保健師、助産師、看護師等で組織する団体であるが、主に看護師のがんに関する研修を集合研修として看護協会で開催する。また、二次医療圏域ごとに設置されている各支部で専門、認定看護師を活用して研修会を計画している。

これらの研修は、毎年増える傾向にある。

(滋賀県放射線技師会)

ここ数年はがんに関する研修会を計画しており、27年度についても学術研修会を2回開催する。(6月28日、11月8日予定)

内容については、講師の話聞きながら、各施設の出席者とテーマに沿った検査状況のディスカッションを行いながら、いかに患者さんにベストな検査ができるか等の議論をしながら研修を行っている。

(3) がん情報サイトについて (資料4)

昨年度がん情報サイトの立ち上げについて準備を行い、4月から「がん情報しが」のサイトを公開した。アクセス数は4月6日～6月13日で約1,000件程度であり、少し少ないということで更なる広報活動が必要である。

なお、アクセス件数が20件以下の場合は、アクセス歴そのものの記録が残らない仕様となっていることもある。

(協議会事務局) 診療支援部会事務局から、このサイトの閲覧者からのアンケートを取ることはできないかとの問い合わせを受けて、滋賀県に問い合わせをしたが、一般的なサイトにあるような、サイトを見て満足しましたか、はい、いいえ、というような方式は、県のホームページの仕様上できないということになっているとのことであった。ただ、本サイトには、「滋賀ネット受け付けサービスはこちら」という閲覧者の意見を集約するものがあるがこちらも滋賀県のほうで準備不足もあり、今現在、ここをクリックしても意見を集約できるようになっていないので、県に依頼して何らかの改善をお願いしているところである。

また、サイトに入ってから、受付サービスに至るまでの過程が長く、受付サービスの利用者登録をするかどうかでクリック、利用規約に同意するかどうかをクリックして、はじめて意見を書ける、またアンケートに回答できることになっており、閲覧者がそこまでして意見等を書いていただけるのかという問題点はあるが、県のホームページの仕様上、これしか閲覧者の意見を集約するツールがないという状況である。

あと、アクセス数自体も少ないと思うので、まずは院内等の身近なところで周知していただいて、あとは、名刺に書いていただくとか地道に努力していかないといけないのかなあと思っている。

(部会員) 利用者登録内容を見ると、個人情報、電話番号、ファックス番号等を書くようになっている等、敷居が大分高そうに思える。この登録は、何か別の目的に使われるのか、そぐわない感じがする。

(協議会事務局) これは滋賀県が受付している一つの例であるが、アンケートの内容にもよるが、そこまで書いていただかなくてもよい設定にもできるので、柔軟にしていけばよいのではないかと思っている。

(4) PDCAサイクルについて (資料5)

今年度、診療支援部会のP D C Aサイクルは、数値で評価できるものを取り込むことにされているので、P l a n（計画）は、「がん情報サイトの閲覧回数」、D o（実行）は、「サイトの充実」としているところである。

アクセス数は、制約はあるもののカウントしていけるが、HPのアンケートは別画面にて入力できるようにはなっているものの、入力画面にたどり着くのに階層が深く不便な仕様となっていることがある。

(部会員) C h e c kで閲覧回数が何回かということを目標数値として書けばよい。それができたかできなかったか評価をして、次どういふアクションを取るかということがP D C Aサイクルだと考えるので、アンケートは関係ないと思う。

(部会員) この議論は前部会長のときからして、たしかに数値目標というものがなければP D C Aサイクルというものがなり得ないということであるが、我々の議論は非常に難度が高くて具体的な数字が出ない。したがって各病院の強みを県のサイトにアップする。その県のサイトの閲覧数しかなかったのをこれにしているという状況である。実際に数としてはまだ決めてはいないと思う。さらにオプションとしてこのサイトを見た方の満足度はどうか、何か意見があればどうかということも数字で拾い上げることができるので、そういうことも含めて県のサイトで何とかできないかということで話し合ってきたところであるので、少し切り分けて考えていければよいのかなと思う。

チェックのところに目標として、たとえば閲覧回数通年で1,000とか、また、アンケートの数字にするとかになるが、アンケートの数値の拾い上げについては、県との交渉になるので時間がかかることになるので、たちまち本年度の数値目標にすることは技術的に難しいことから、閲覧回数になる。アクションのところでは皆さんにどのように知っていただけるかという動きになってくると思う。

(部会長) アクセス数がまだ少ないのは間違いないので、各施設において様々なチャンネルを利用して広報していただくとありがたいと思う。

(部会員) このアクセス数の低さを考えて再度体勢を立て直す必要がある。広報ということに関しては、県が主体となってするところであるので協力をお願いしたい。

(部会員) この部会には各職能団体が集まっているので、案内チラシ等があれば会員を通じて広報できる。

(患者会) 滋賀県のホームページからアクセスすることは階層が深くて困難であるので、各病院のホームページにがん情報しがのリンクを張っていただくことで、アクセス数が伸びるのではないか。

(部会長) 各病院におかれては各ホームページにがん情報しがのリンクを張っていただくとともにアクセスしてもらえるように努力をよろしく願います。

(5) 先進的（高度）ながん医療について

(資料6)

拠点病院・支援病院の実施する先進的（高度な）がん医療についての紹介を協議会のホームページに掲載している。内容変更があればお知らせしていただきたい旨、協力依頼をした。

また、この情報もがん情報しがのサイトに組み入れていただき情報発信ができればと考えているのでよろしくお願ひしたい。

(6) その他

①滋賀県におけるがん・生殖医療の地域連携ネットワークについて (資料7)

滋賀医大腫瘍センター 河合特任助教から次の説明をした後、議論した。

がん生殖医療、がんのサバイバーシップの一つとしての妊孕性について、特に若年患者にはがん治療の際、その情報提供や対策が望まれている。日本での取り組みは、日本がん生殖医療研究会ががん治療地域連携に力を注いで、まず、岐阜県で最初のモデルが立ち上がり、これをモデルとして我々も取り組みたいということで2月11日に広く呼びかけさせていただき、多くの先生方に参加いただいた。今後、27年度内のキックオフを目標に、事務局を滋賀医科大学内に置いて準備を始めさせていただいている。名称は、滋賀がん生殖医療ネットワーク(オフネット滋賀)とし、ロゴも出来上がったところである。現在国内で9件の取り組みが行われており滋賀県もホームページで取り組みが紹介されている。

生殖医療ネットワークは、患者さん、がん診療従事者、妊孕性を温存する生殖医療施設、がん生殖医療支援科(部)、呼びかけ施設の5つの要素で構成している。関係資料(本日配布資料)は、すべて公開することとしており、滋賀医科大学ホームページからダウンロードすることができる。

6月より滋賀医科大学医学部附属病院母子女性診療科にがん妊孕性外来を開設している。また、呼びかけ施設ホームページ準備中、7月公開予定としていたが、本日16時ころに滋賀医科大学産科学婦人科学講座がん生殖ネットワークのサイトにアップ完了したので是非ご活用いただきたい。

このネットワークの成否は、県下の拠点病院等の皆様のご支援ご理解と積極的に利用していただくという熱意の上に成り立っていくと思っているのでよろしくお願ひしたい。

(部会員) 事業主体は、滋賀医科大学産科婦人科学教室と考えてよかったですか。

(河合助教) ネットワーク事務局を置かせていただいている。なお、拠点病院、支援病院等の先生にご参加いただきたく、滋賀県のバックアップをいただきたいと考えている。

(滋賀県) ソフト面のがん基金からの援助とかは十分に考えられる。ただ申請していただかなければならない。

がん対策基本法が来年度でちょうど10年目になり、その翌年から第3期のがん対策基本計画を立てることになるが、その目玉としてライフステージを考へられている。高齢においては単なる高齢ではなくて高齢者向けのレジメン並びに、認知症プラス高齢者の提案はもうすぐ出る。それからAYA世代から成人にかけては生殖機能の温存が案に出ている。非常に追い風となるのでよろしくお願ひしたい。そして、これは、診療支援部会にぴったりの題材と思うのでよろしくお願ひしたい。

(河合助教) これだけのツールを作って運用しようとするのは滋賀が初めてで、滋賀モデルとして全国から注目されることにもなるので積極的に利用を考えていただきたい。

なお、費用については、自費診療の料金体系になっている。

(滋賀県) 最近の話題で、就労支援と妊孕性支援があり、就労支援についてはまず患者さんを診たときに我々がまず言えることは、すぐに辞めることを考えなくてよいということ、妊孕性に関しては、挙児に関して現場の医療者に必ず聞くことが患者の人生を変えることになるのでよろしくお願ひしたい。

その他の意見

(オブザーバー参加者) 先ほどの、情報が滋賀県の情報と重複するという議論に関して、先進医療、このがん種の治療はどこどこが実施している、さらに、誰がやっていて、それが何曜日の外来でやっているという情報を診療支援部会のオリジナルとして情報提供することもこの部会のあり方としてよいのではないか。あまり手間もかからず、アクセスも増えるのではないかと思う。

②メーリングリストの作成について

sinryosien-ml@belle.shiga-med.ac.jp (診療支援部会)

新規部会員を含めたメーリングリストを作成するので、部会員の皆様に活用していただくよう協力依頼した。

③次回の当部会の開催は、10月頃として改めて調整することとした。

○配布資料

診療支援部会 部会員名簿

前回議事概要 (平成26年度 第3回診療支援部会 2月25日開催分)

(資料1) 滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート (診療支援部会)

(資料2) A 各病院の専門性を活かした医療機能分担のための公表項目

B がん診療連携拠点病院 病院概要

C がん診療連携拠点病院 指定要件等

(資料3) 平成27年度 各団体取組予定

(資料4) 「がん情報しが」サイトのアクセス数

(資料5) 平成27年度滋賀県がん診療連携協議会PDCAサイクルチェックリスト

(資料6) 拠点病院・支援病院の実施する先進的(高度な)がん医療について

(資料7) 滋賀県におけるがん・生殖医療の地域連携ネットワークについて